

今年没後100年の夏目漱石関連の本を紹介します！

図書室の蔵書をフリーワード「夏目漱石」もしくは「漱石」で検索してみると…
50冊以上ヒットします。

その中で、目立たない(?) けれどちょっと面白いものをいくつか紹介します。

『文豪ナビ 夏目漱石』 新潮文庫 編 新潮文庫 B910.268-ナ

まさしく、夏目漱石の人と作品をナビゲート！

『乙女の日本史 文学編』 堀江宏樹・滝乃みわこ 著 角川文庫 B910.2-オ

上代から平安、中世、近世、近現代文学の名作について、「乙女」の目線で読み解いています。夏目漱石の作品はどのように解説されているのでしょうか。

『恋する文豪 日本文学編』 真山知幸 監修 東京書籍 C910.28-K

近現代を代表する文豪と呼ばれる作家たちの人物像に迫るコミックです。

『ビブリア古書堂の事件手帖～菓子さんと奇妙な客人たち～』 三上延 著

古書にまつわる謎と秘密を解き明かします。 **メディアワークス文庫 B913-ミ-1**

『漱石の思い出』 夏目鏡子 述 松岡譲 筆録 文春文庫 B910.268-ナ

漱石夫人の鏡子さんが語った「思い出」を長女の夫、譲氏が書き留めまとめたもの。
所謂、伝記ではなく、漱石の赤裸々な姿が見えます。

☆図書委員からのオススメ☆**『キノの旅』 時雨沢恵一 著 電撃文庫 B913-シ-1～20**

これは旅人とモトラド（二輪車）、及び彼らにかかわりがある人たちの、旅のお話。

世界は広く、道の先に国がある限り旅人たちは旅を続ける。

旅人キノも、モトラドのエルメスと旅を共にしていた。

一つの国に滞在するのは3日、それ以上はしないという規則を持って。国が違えば文化も違う。

それぞれの国には彼らなりのルールがあり、外から見れば良いものもあれば悪いものもある。

どんなに愚かなルールだとしても、国民はそれを忠実に守る。

そんなキノとエルメスはいくつもの国を「観察者」として通り過ぎる。

よくある冒険小説のように、主人公の心の成長は決して描かれぬ。

余計な手出しはせず、ときに残酷な選択をすることもある。

まるで静止画のような、冷たい世界が旅人の歩んできた道に広がる。

しかし、静止画だと言われる文だからこそ、

そこから作者が伝えたい明確なメッセージを読み取ることができる。

いつでも、どこでも、短い時間でも、長い時間でも、

少し変わった旅人たちから大切なことを学べる短編小説集。